

都市再生整備計画 フォローアップ報告書

精華地区

平成25年3月

岐阜県多治見市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4- 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価					フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み					理由	改善策の方向性	
指標1	交通事故増加率	%	+44	-20	-33	確定 見込み	○ ●	あり なし		-23	H25年2月	○		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	(都)国道248号線多治見バイパスの整備(4車線化や歩道設置)をはじめ、バイパスに接続する各種道路における歩車分離や注意喚起等の整備により、交通環境の安全性が向上したことで、確定値も評価値時点を上回り、交通事故件数の減少に繋がったと考えられる。
指標2	歩行者、自転車利用者数の増加	人/12h	525	580	604	確定 見込み	○ ●	あり なし		697	平成24年11月	○		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	(都)国道248号線多治見バイパスの両側に歩道が整備されたほか、バイパスに接続する道路の整備により安全かつ円滑にバイパスへ連絡できるようになったことから、利用者数の増加に繋がったと考えられる。評価値時点で一部未供用だった箇所も完成し、計画区域の全域が利用可能になったことから、確定値は評価値を上回る数値となったと考えられる。
指標3	地球温暖化抑制に関する地域満足度の向上	ポイント	2.07	3.00	2.76	確定 見込み		あり なし	●	2.74	H25年3月			☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	(都)国道248号線多治見バイパスの整備に合わせ、沿道にポケットパークやコミュニティ花壇を整備したほか、バイパス等の各種道路整備において、気温上昇抑制効果のある舗装材を採用したことにより一定の改善がみられており、目標の達成には至らなかったものの確定値も評価値と同程度の傾向を示したと考えられる。
指標4						確定 見込み		あり なし			H 年 月			☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	
指標5						確定 見込み		あり なし			H 年 月			☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	
事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入										フォローアップの必要のある指標について記入				全ての指標について記入	

様式4- その他の数値指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
					評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
その他の数値指標1	地区内の1人あたりの公園面積	m ² /人	0.68		0.93	確定 見込み	●		0.93	平成24年10月			☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	(都)国道248号線多治見バイパスの整備に合わせ、沿道にポケットパークやコミュニティ花壇を整備したことで、地区内の1人あたりの公園面積の増加に繋がった。	
その他の数値指標2						確定 見込み				H 年 月			☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる		
その他の数値指標3						確定 見込み				H 年 月			☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる		
事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入										フォローアップの必要のある指標について記入				全ての指標について記入	

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4 - 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5 - に記載した 今後のまちづくり方策 (事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	整備した道路の適切な維持管理	定期的な道路状況の確認を実施し、適切な道路維持管理を実施している。	損傷箇所を早期に発見・修繕することにより、安全な交通環境の提供に努めている。	継続的に適切な点検を実施するほか、交通量増加に伴う舗装劣化状況を鑑み、ライフサイクルコストの縮減も踏まえた適切な維持管理に努める。
	整備した公園等の適切な維持管理	多治見陶都ライオンズ、近接する中学校、周辺企業等の協力のもと、地域による清掃活動等が実施されている。	地域住民の日常的な清掃活動等のより公園が適正に維持管理され、市民の憩いの場として利用されている。	ポケットパークやコミュニティ花壇は、地区の気温上昇の抑制や道路沿道環境の向上に繋がるため、今後も地域住民や学生等との協働のもと適切な維持管理に努める。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	生活道路の交通環境向上	地区北部の住宅街において、地域住民の要望を踏まえた交通環境の向上に向け、安全性の確保が必要な交差点部に隅切りを整備した。	安全な交通環境の創出とともに、緊急車両が既存集落へ流入しやすくなったことより、緊急時における地区の安全性向上が図られた。	地区内の生活道路などについては、今後も緊急車両の進入路の確保や歩行者・自転車の安全な交通環境の確保に向け、隅切りの設置や歩車分離のためのカラー舗装など、適切な整備を推進する。
	公共交通の利用促進	国道248号多治見バイパスの拡幅整備に併せ、既存のバス停を新設した。 また、バス停の整備に併せ、バス停部分の路面に気温上昇を抑制する効果のある遮熱性舗装を施工した。	バス停の新設や遮熱性舗装によるバス停の快適性向上により、公共交通の利便性の向上が図られた。	環境に配慮した市民の行動変容の1つとして、日々の移動手段が公共交通へ転換されるよう、継続的な意識啓発や公共交通の利便性向上を検討していく。
	自転車・歩行者交通環境の安全性向上	多治見IC交差点部の歩道橋架け替えに併せ、自転車でも横断が可能となるよう歩道橋にスロープを設置した。	自動車通行との分離により自転車利用の安全性・利便性の向上が図られた。	道路整備に伴い、今後も歩行者と自転車の交通量増加が想定されるため、歩行者と自転車の交錯などの交通安全上の状況を注視しつつ、状況に応じて交通安全対策を検討していく。

事後評価シート 添付様式5 - から転記

様式4 - フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項